

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170202400		
法人名	株式会社 矢嶋商店		
事業所名	グループホームあすか東川口		
所在地	埼玉県川口市戸塚1-13-15		
自己評価作成日	令和2年 4月 8日	評価結果市町村受理日	令和2年8月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和2年5月書面、電話にて調査

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、ご入居者にその日のやりたいことや要望を確認して状況に応じながら、散歩や買い物、レクリエーションなどを行っています。食事に関しては、昼、夕は手作りで、事前に食べたいものを一緒に考えたり、調理したりして、ご自宅での生活と同様にできるように努めています。食事作りや片付けを共にする事により、楽しみややりがい、手先を使う等の生活リハビリになる事を重要視しています。ご入居者の要望や趣味に合わせて個別に少人数で詩吟やパイプオルガンの鑑賞、マラソンの応援、他事業所の会食交流会などを行っています。歌やレクリエーションなどのボランティアを多く受け入れ、ご入居者の楽しみの一つとなっています。また、年に1回3事業所合同で温泉一泊旅行を行っており、ご入居者、ご家族、スタッフの関係を深め

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外部評価は書面調査として実施した。感染予防で2月末から事業所への外来者来訪を避けている。家族とは電話やSNS通話の他、家族向け通信の写真を増やしたり工夫があり、協力の下、感染等大過なく過ごすことが出来ている。自立支援と生活リハビリを日々の随所で捉えており、利用者の大きな楽しみである食事を通しての実践がある。何を食べたいかとの相談からメニューを決め、一緒に買い物から調理、配下膳、片付けと進めることで、楽しみや遣り甲斐につなげている。テラス越しの家庭菜園では、夏ミカン・ハス・柿等々の季節の物を楽しめるようにしており、利用者と共に育てることで、外気浴も兼ね外へ出ることを支援している。年に一度の一泊旅行は恒例であり、今年度は45名の参加で湯沢温泉へ行き、普段と違う笑顔に接している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念にそった事業目標を掲げ、ユニット会議での確認や、月間目標に取り入れ、実践に繋げている。ユニット会議にて振り返りを行っている。	家庭的な環境の下、その人らしい活力ある生活を支えることを目指している。ユニット会議や全体会議でも取り上げており、家事や散歩などのチェックリストで進捗状況を把握し、共有している。	年間の目標にも挙げている「グループホームらしさをより出して行く」を、更に底上げすることを目指す。生活リハビリの取り組み等を、ユニット間等でも共有し更なる充実を望みます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オレンジカフェ参加、中学校の職業体験、近隣ボランティアの受入れ、若者自立支援センターの見学等を受け入れ。近所のコンビニやケーキ屋とは顔見知りになっている。	近隣商店とは顔馴染で声掛けもあり、利用者にとっては楽しみの場所でもある。至近中学生の職業体験の他、若者サポートステーションの見学もある。オレンジカフェにも参加しており、挨拶や戴き物もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時の見学者対応し、ご利用者、ご家族の相談援助を行っている。入居が難しい場面では、近隣のグループホームをご紹介している。職業体験や見学、ボランティアについても、認知症についてのお話し、知って頂ける機会としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、事業所の報告をし、ご家族のご意見交換もできる様になってきている。参加できなかったご家族には、レジュメと会議録を送付している。	代表者を含め家族中心として2カ月に1度実施されており、地域包括支援センターや市役所の参加も出来るよう年に2回は平日開催としている。看取りへの希望意見を受け、具体的な事例を話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会に地域包括職員の出席あり、地域について研修や空き情報の交換をしている。運営推進会議を地域包括や市役所が来れる様に6回の内2回を平日開催にした。	行政報告を担当窓口へ提出して、随時相談し、集団指導にも参加している。戸塚地区グループホーム連絡会では、地域包括支援センター職員の参加もあつて、研修や地域の情報交換の場ともなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3事業所合同の会議にて、身体拘束の確認、話し合いをしており、その内容をユニット会議にて伝えている。玄関の施錠は、行っているが、訴えがあった際は、外出の支援ができる様に、業務の調整に努めている。	至近同法人との3事業所合同会議で、身体拘束の確認と話し合いの場があり、内容をユニット会議で共有している。虐待チェックシートを用いて、振り返りの機会と、注意し合う環境作りも出来ている。トイレ誘導の声掛けにも工夫がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待チェックシートを用いて、スタッフ自身のケアを振り返れる様にしている。命令口調や否定的な声掛け等がないか意識している。日々、気になる場所があった際は、注意できる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家庭環境や経済状況を把握し、必要な入居者には後見人制度を利用している。生活保護を受給しているご入居者は、担当のケースワーカーとも密に連絡を取り、情報共有をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に各種契約事項の説明を行い、家族から疑問や不安等があれば、その都度説明を行っている。不明点や心配事については、随時相談できる旨を伝えて、理解や納得して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、事業所の報告をし、ご家族のご意見を伺える様にしている。家族が面会に来た際には、最近の状況等を伝え、家族からも心配事や意見を聞くように努めている。家族からの要望等をスタッフにも伝え、改善を行っている。	来訪時の情報交換の他、運営推進会議が家族の意見交換の場となっている。意見は職員にも伝え共有している。一泊旅行での福祉車両の提案があり、今年度の旅行ではリフトバスを利用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や人事考課の際に、普段からスタッフの意見を聞く機会を設けている。3事業所で行う会議の際に、役職者や代表者も参加し、全体を通じた話し合いをしている。	ユニット会議で意見を聞くようにしているが、人事考課等に合わせた個別面談でも意見を聞いている。職員の提案を受け、入浴嫌いの方へ、入浴シールスタンプを居室に貼ることで回数の増えた人もいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の面接や、その都度、スタッフから話を聞く機会を設け、スタッフの想いや目標に向けて考え、賞与に反映する等している。介護休業の制度も利用し、仕事を継続できる様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人のOJT制度を利用。内部で勉強会、外部で事例検討会等の参加を促し、ケアの質の向上や知識理解に繋げている。マニュアルやチェックシートの見直し作成をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	戸塚連絡会、往診医のつながりのグループホームでの事例検討会に参加し、意見交換をしたり、同じ悩みを話したり、交流の場になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人とお話をして、楽しみや不安等をお聞きし、介護計画に組み入れている。また新しい環境で不安が強くなる事も考え、ご本人の様子を見ながら、スタッフから声掛けやできる事を提供していき、安心できる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、実地調査、契約時に、お話を伺い、不安や要望についても、介護計画に組み入れている。入居後の様子をお伝えしたり、改めてご要望がないかを確認したりして、ご家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を決める前に見学に来て頂き、また実地調査に伺う事で、入居者の状況を確認し、本人と家族の意向を聞き、状態に応じた介護計画を作成している。入居後の生活から必要なケアをユニット会議で話し合い、随時実施をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者と、調理、掃除を一緒に行う事で、介護する側、される側ではなく、生活を助け合っていく関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者の生活歴や趣味嗜好をご家族にも、聞きながら、ケアに取り入れている。またあすかでの生活の様子を伝えながら、ご本人に必要な事を、ご家族と一緒に考えられる様に、努めている。家族との合同外食も行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や手紙、電話等は、基本的に自由にできる様にしている。行ける範囲であれば、行きつけの店に外食の計画を立てる事や、買物に行く事もできる。	知人や友人の来訪も自由であり、入居前の習い事の発表会へ行く人もいる。近くのコンビニやケーキ屋の常連となり新たな関係も出来ている。家族とお墓参りや親族の集まりに出掛ける人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話や気が合う方、出来る事が合う方等、ご入居者の様子に合わせて、食席を変えたり、家事やレクに促したりし、ご入居者同士と一緒に過ごせる様に工夫している。話がかみ合わずトラブルにならない様にスタッフが様子を見て介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて、ご入居者の情報提供を行い、ご家族にも、退去後も相談ができる旨を伝えている。面会が可能な場合は、様子を伺いに行く事もある。退去されたご家族に夏祭りなどのイベントに参加して頂く事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の更新の際の聞き取りで、ご希望を聞いたり、普段の生活の会話から、思いを汲み取っている。困難な場合は、現在必要な事と以前好きだった事、話していた事を元に、思いを検討している。	普段の生活で、楽しそうな様子や不安な様子から思いを知るほか、ケアプラン更新時の聞き取りからも汲み取っている。表現等が困難な方は、以前好きだったことや、家族の情報から意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、入居前に利用していたサービス、それぞれから、お話を伺い、これまでの生活の様子を把握に努めている。ご本人からは、あすかの生活の中からも気づきがあり、情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を記録に残し、その日の過ごし方や心身状態等、全スタッフが把握できる様に努めている。また、日々の小さな変化等も気付いた事は細かく記すようにしている。本欄の内容を要望に合わせ、変更している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議やモニタリングを毎月行い、ご本人の状態の確認、ケアの再確認を行っている。往診や訪看時にも相談できる様にし、ご家族にも相談や要望を聞くようにしている。	居室担当者他のモニタリングを受けて、カンファレンスで現況の見直し等を行っている。趣味や希望を取り入れるようにしており、訪問医や訪問看護師の意見も参考にしている。家族来訪時等に相談している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々介護計画に沿ったケアができていないかケースに記録をし、変化や特変があった際は、細かく書いている。対応が変わった際は、申し送りに記載し、情報を共有。状況が変わった時や見直しの時期には、介護計画の作成をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者の状態に合わせて、業務の流れを変更したり、スタッフの勤務や配置を工夫したりしている。実践例はないが、個別でのボランティアの活用や、認知症デイケアの活用も検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニや公園まで散歩に行ったり、車にてスーパーまで買い物に行ったり、楽しみに繋げている。ご入居者によっては一人で買い物に行ける様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を聞き、月二回の内科往診、毎週の歯科往診にて対応している。かかりつけ医を継続する場合や外来受診がある場合は、往診医と訪問看護、スタッフと情報共有をしている。往診医、訪看は24時間の電話対応ができる。	訪問診療と訪問歯科があるが、従前からのかかりつけ医を利用される人もいる。その場合は医療情報を共有するようにしている。夜間も、訪問医や訪問看護との連絡は可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護、往診同行の際に、情報共有と相談ができる関係を作っている。また体調不良時や緊急時には、電話、駆け付け等の対応ができる様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医による紹介状の作成や、スタッフによるサマリーの作成を行い、入院時の情報提供に努めている。入院時も、面会時お話を聞いたり、退院時のカンファレンスの場を設けて頂いたりし、退院後に、適切なケアが受けられる様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の日々の変化や退院後の状態等から、重度化が予測される場合には、早い段階から家族に伝え、相談をしている。本人や他入居者の状態、スタッフの能力等を把握しながら、どこまでのケアができるのかを判断し、家族にも説明をしている。	入居時に重度化指針を説明し、予測される場合は早い段階から相談するとしている。看取りの経験も持ち、必要時には往診の際に家族も同席し、今後の進め方等を相談している。看取りと決まれば、職員へも周知し連絡体制等確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の研修に参加したり、マニュアルを元に伝えている。ユニット会議でシュミレーションをしたり、テスト形式にて事故の対応を確認したりしている。急変や事故等についても、他事業所の各スタッフに伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中想定と夜間想定の日災避難訓練を行い、参加できないスタッフにも計画書の確認をしている。その年や行っている訓練によって、水害や地震等も変えている。	年2回の避難訓練を行っており、夜間も想定しての実践で、参加できない職員へは計画書の確認を行っている。都度、水害や地震等を考慮している。災害マニュアルは有り、備蓄品は3日以上を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、丁寧な言葉遣いをする事を意識し基本、敬語で話すようにしている。また排泄やケアの声掛けの際には、周囲にも気を付け、言葉を選ぶようにしている。	個人情報や施設情報は施錠管理され、日常使用の個人ファイルも個人名をイニシャル表記として工夫がある。研修は、入社時やユニット会議でも行っており、排泄やケアの声掛けには言葉を選んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者からの希望や思いがあれば、それに添える様に出来る限り努めている。食べたいもの、やりたい事等を選ぶような声掛けを工夫している。意思表示が難しかったり、苦手な方に関しては、普段の会話から汲み取る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、その日の入居者の希望や状況によって、変えている。食事のメニューや日課、外出先等は、ご入居者の要望を聞きながら、決める様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出の際には、化粧をしたり、よそ行きを着たり、各入居者に合わせたおしゃれをしている。また、日々の整容については入居者に合わせて声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者と一緒に調理から片付けまでを行い、準備から楽しめる様にしている。入居の要望をきき、献立を決め、買い物に行き、楽しみに繋げている。イベント食や季節のものを取り入れる事も行っている。	調理から片付けまで一緒に行っており、毎日一人一回以上調理への参加がある。メニューの希望を聞き、共に買物へ行ったり、季節の恵方巻・桜餅・おはぎ等を共に作っている。畑の収穫も喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事の摂取量や項目を日誌に記入し、全スタッフで把握している。必要に応じて、水分量や食事量の表を活用したり、不足している入居者に関しては、食事以外の時間でも本人の好きな物を摂取を促したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的に毎食後、口腔ケアを行っている。それぞれの状態に合わせ、声掛けや磨き直し、義歯の預かり等をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、排泄のパターンや排便コントロールを行っている。自力でのトイレが難しい入居者に関しては、パターンに合わせたトイレ誘導を行っている。極力、トイレで排泄できる様に心がけている。	排泄チェック表から個々のパターンを掴み、出来る限りトイレでの排泄を基本としている。夜間 覚醒の不安定な方等へはベッド上でのパッド交換や離床センサー利用をユニット会議で話し合ったりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品やオリゴ糖、食物繊維等の摂取を行い、自然排便を心がけている。トイレ時に、腹圧を掛ける様に声掛けをしたり、体操や歩く事で促したりしている。それでも便秘気味の際は、往診医に相談し、下剤・座薬の使用をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大まかな流れはあるが、入浴日や時間は調整できる様にし、ご入居者が入りたいときに出来る限り入れる様に支援している。入浴が億劫なご入居者に関しては、定期的に声掛け、トイレ後や外出後等に入りたい気分になる様に工夫している。	基本回数等はあるが、希望に合わせて入浴機会を作り、夜間帯に入る方もある。入浴が億劫な方へは、外出後やトイレ後に誘導することもある。ユズ湯や菖蒲湯の他、お話好きな人の思いを聞くようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間は強制せず、入眠時間や生活習慣に合わせて、声掛けをしている。日中もご入居者の生活ペースに合わせて、好きな時に居室に戻り、休んで頂いたり、ソファでゆっくり読書などしてくつろげる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに、お薬情報をとじており、いつでも確認できる状況を作っている。また、処方変更があった際には、副作用や注意点等、往診記録や口頭で引き継ぎを行い、周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが出来る事や好きな事が異なる為、その方に合わせた手伝いやレクを行っている。読書が好きな方は、本を用意したり、コーヒーが好きな方は一緒に買いに行ったり、編み物が好きな方はそれを継続できる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物の訴えがあった際には、スタッフと一緒に出来る限り、その日に買物に行けるよう環境を整えている。個別や少人数での外出を行ったり、ご家族と相談をして、ひとりでの買い物練習をしたりしている。	散歩や外気浴等々を個々に合わせ取り入れている。買物への希望があれば、出来る限り当日に行けるよう努めている。年に一度のあすか合同温泉旅行は、家族へも声掛けし楽しみとなっている。音楽鑑賞会やイベント会場への少人数外出もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能なご入居者に関しては、少額のお金を持ち、買物する。金銭管理が難しい入居者に関しては、スタッフが一緒に買物に行き、本人の欲しいもの選んで頂き購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際には、いつでも電話できる様にしている。家族だけでなく、友人と手紙のやりとりや電話をしている入居者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度設定やテレビの音量等、ご入居者が不快な気分にならない様に設定し、心地よい環境で生活できる様に配慮している。 また、写真を飾ったり、毎月のカレンダーや入居者の作品を飾る事で、柔らかな雰囲気の中で生活できる様に努めている。	リビングからバルコニー越しの菜園と随所の緑が心地よい。温湿度やテレビ音量にも配慮がある。毎月の手作りカレンダーや利用者作品の習字、折紙等で季節感と柔らかな雰囲気作りが出来ている。掃除は利用者も参加している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にも、全体が見渡せる席と、離れた席、日の当たる席、ソファー等、ご入居者同士好きな場所で自由な会話ができる様に配慮している。ご入居者の状況によっては、ホールや別ユニットへ移動する事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真等、今まで使用してきたものを居室に置く事で、入居時の不安の軽減を図ると共に、ご入居者に合わせた、家具の配置やベッドの位置にして、危険がない様にしている。	クローゼット・エアコン・床暖・洗面台と、全部屋ではないがトイレのある部屋もある。他は、危険性のない使い慣れた物を持参している。馴染みの家具や家族写真を飾り、個々の空間が出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には、分かりやすい様に表札等をつけている。廊下や共有部分にはモニターが付いているが、ご入居者に合わせ、介入が必要かどうか確認でき、過剰な介助を防ぐ事が出来ている。		